

研究
主題

日常的な相互参観を基盤にした、学び合う校内研究の構築
 - 視点を明確化したワンシーン・チャレンジシートによる、見せ合う・語り合う研究授業の取組を通して -

所属校名 石巻市立山下中学校
 氏名 小林 満

1 山下中学校における校内研究の実状と課題

本校では令和3年度から3年間、校内研究のテーマを「主体的に学習に取り組む生徒の育成」として取り組んできた。協働学習を取り入れることで、仲間と学び合う姿勢は育ってきたが、自ら課題を見つけて取り組む力や、粘り強く課題に向き合う力に課題が残った。また、全国学力・学習状況調査の結果等からも、基礎的な知識は定着している一方で、応用力や発想力に課題があることが示された。

こうした実態を踏まえ、令和6年度より研究主題を「確かな学力を身に付けた生徒の育成」と設定し、新たに3年計画で校内研究を進めてきた。「確かな学力」とは中学校学習指導要領(総則編、P23)に示されているとおり、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の3つの柱を総合的に習得するとともに、多様な学びを保障することで、課題を見いだし、主体的に判断・行動し、よりよく問題解決する資質・能力を身に付けることを指すものである。

今年度は研究の2年目として、副題に「授業UDの視点を取り入れた授業の工夫を通して」を掲げ、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒を含め、全ての生徒に教師の指導の意図が伝わりやすい授業づくりを進めている。しかし、本校の校内研究を進める上で、研究授業に伴う教員の心理的負担が課題となっている。具体的には、学習指導案作成の負担、事後検討会における授業者の求める視点と参観者の助言のずれ、検討会の時間確保の困難などが挙げられる。

2 本研究の取組

本研究では、上記した本校の課題を踏まえ、研究の視点を明確化することにより、研究授業に伴う教員の心理的負担を軽減することで、日常的に互いの授業を気軽に相互参観できる仕組みづくりを目指す。また、全ての生徒が楽しく学び合い「わかる・できる」授業づくりを可能にするため、以下の2点に取り組んだ。

(1) 授業UDの視点の共有

研究の視点の明確化に際して、本校の校内研究の副題である「授業UD」を実効性あるものとするため、授業改善の視点を明確化する必要があった。そこで、菊池哲平(2024)「授業UD新論-UDが牽引するインクルーシブ教育システム-」で示された「授業UDの7原則」(長江・細渕、2005)を共通の視点として活用することとした。この視点を授業者と参観者が共有することで、事後検討会における検討対象の焦点化を図った。

(2) 「ワンシーン・チャレンジシート」の導入(別紙の①②参照)

従来の詳細な学習指導案に代えて「ワンシーン・チャレンジシート(以下ワンチャレシート)」を作成した。このシートは、普段の授業を参観してもらうためのものであり、授業内で工夫したい一場面に絞って記述する形式である。項目は「単元(題材)名」「本時の目標」「検討するワンシーンにおける生徒の実態」「校内研究の視点(授業UD)」「検討したいワンシーンと具体的な手立て」の5つに絞って簡素化している。こうすることで、学習指導案作成の負担を軽減すると共に、授業者にとっては授業構想の一助となり、参観者にとっては授業者の意図を把握しやすくなる効果を狙っている。また、研究授業に向けて特別な準備をするのではなく、普段の授業を気軽に参観し合える仕組み作りを目指した。この仕組みが校内に浸透することで、若手教員にとっては授業公開への心理的ハードルが下がり、ベテラン教員にとっても新たな視点で授業を見直す契機となるのではないかと考えた。

3 授業実践Iを通して明らかになった成果と課題

「ワンチャレシート」を用いた授業実践から、以下の成果と課題が明らかになった。

(1) 成果

- ・授業者にとって、研究の視点が明確で準備がしやすく、授業後の助言も的が絞られたものとなった。
- ・参観者にとって、授業者の工夫したい場面が明示されているため、視点を明確に持って参観できた。
- ・授業UDの7原則を活用したことで、生徒の学習参加や、ICT活用による情報共有の工夫など、学びやすい環境づくりが進んだ。

(2) 課題

- ・授業UDの7原則を本校の実態に即した独自の視点として更に具体化する必要がある。
- ・今回は「ワンチャレシート」の作成者本人による授業実践であったため、他教員が活用した際の使用感の検証が必要である。
- ・事後検討会において、「ワンチャレシート」を有効活用するための仕組みが明確でない。特に、授業の参観者が助言者で終わってしまうため、見せ合う・語り合う研究授業の取組に至っていない。

4 授業実践Ⅱにおける取り組み（別紙の③参照）

これまでの実践により、授業UDを軸とした共通視点の共有と、「ワンチャレシート」の導入が、授業者の心理的負担を軽減しつつ、研究授業を活性化させる手立てとなることが確認できた。

それを踏まえて、授業実践Ⅱでは以下の3点の実践を通してさらに主題に迫りたいと考えている。

(1) 「山下中学校版授業UDの視点」を策定

授業実践Ⅰでは、授業UDの7原則を共通の視点として用いてきた。しかし、授業改善を学校全体で継続的に進めるためには、本校の実態に即した視点を設定する必要がある。そこで、授業UDの7原則を基に、これまでの校内研究の蓄積や、教師・生徒へのアンケート結果などを参考にして本校で協議を重ね、具体的な授業行為として「山下中学校版授業UDの視点」を以下のように策定した。

- ア 生徒に安心感を与える、教員のあたたかな表情や対応。
- イ 生徒の目線、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。
- ウ 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。
- エ 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。
- オ 教師の発問に対して、生徒が仮説を立てる時間の確保。

(2) 「ワンチャレシート」の改善

本校の校内研究で、「教員同士のフリー授業参観週間」を実施した。授業者・参観者に活用してもらった上で寄せられた使用感や改善案を踏まえ、「ワンチャレシート」の改訂を実施した。

(3) 「ワンチャレシート」を活用した事後検討会

授業者の指導法の改善だけでなく、参観者にとっても学びになり、授業の改善案を持ち帰ることができる方法の一つとして、事後検討会の仕組みの見直しが挙げられる。松村英治（2019）「仲間と見合い磨き合う『授業研究』の作り方」では、充実した事後検討会に必要な要素としてさまざまな手立てを取り上げている。そのうち、本研究で着目したのは、「授業の事実、子供たちや教師の姿、発言、記述、表情、変容、かかわりといった具体的な根拠に基づくことを話し合いの指針とすること」である（同書P135）。

この手立てを活用することで、自分や他者の授業を適切に評価するために必要な授業の見方を共通理解し、事後検討会の充実を図る。

そのため、「ワンチャレシート」の右半分に参加者用記入欄を設け、上記の「授業の事実」等を記録する形式とした。授業者と参観者の視点を統一すると共に、授業UDの視点に偏らず、授業行為を評価できるようにするためである。また、事後検討会を以下のような手順で実施することで内容を明文化し、効果的な話し合いを目指したいと考えている。

① 本検討会の意図の確認（司会）

この事後検討会は、授業者の授業実践を参考とし、研究の視点への迫り方や授業改善の手立てを皆で語り合うことで、参加者全員の指導力を磨き合うことを目標とした検討会である意図を伝える。

② 「ワンチャレシート」の記録を基にした、授業に有効だった手立ての確認（参観者）

「教師の発問とそれに対する生徒の反応」「教師から生徒への声掛け」「生徒の変容」など、授業の客観的な実態という共通の視点を持って授業の分析に当たることで、研究授業を適切に評価し、実態把握的な協議を目指す。

③ 授業をしての所見・感想（授業者）

参観者が見取った「授業の客観的な実態」を忌憚なく発言できるように、授業者の感想は後半に位置付ける。これは、授業者の意図と実際の授業とのずれを指摘することを目的とするのではなく、参観者の見取りを基軸とする検討を重視するためである。

④ 研究授業で得たものを今後の授業に生かす方法（授業者・参観者の両方）

授業に生かす方法を考えたり、話し合ったりする時間を確保することで「見せ合う・語り合う研究授業」の本質に迫る。

A 3 左ページ

ワンシーン・チャレンジシート (使用例)

日時 令和7年10月16日(木)
指導者 教諭 ●●●●
場所 ●年●組 教室

単元(題材)名	地域の食文化 本時:「地域の食材の特徴を知る」
本時の目標	地域の食材や日本の伝統食材の特徴や良さを探そう。
検討するワンシーンにおける生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入において、全体指示を聞くことが苦手な生徒が作業指示を聞けていないときがある。 ・授業中、集中力が続かずに上の空になってしまう生徒がいる。 ・言葉だけの説明では理解しにくい生徒がいる。
山下中学校版授業UDの視点	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> (1) 生徒に安心感を与える、教員のあたたかな表情や対応。 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 生徒の目線、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。 <input checked="" type="checkbox"/> (3) 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。 <input checked="" type="checkbox"/> (4) 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。 <input type="checkbox"/> (5) 教師の発問に対して、生徒が仮説を立てる時間の確保。
検討するワンシーン	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 【導入場面】 <input checked="" type="checkbox"/> 【ICTの活用場面】 <input type="checkbox"/> 【課題解決学習の場面】 <input type="checkbox"/> 【その他】 () <p>検討するワンシーンのおおよその時間</p> <p>10時45分 ~ 10時55分頃</p>
<p>感想フォーム</p> <div data-bbox="164 1435 384 1621" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">二次元コード</div> <p>過去の記録 オンライン表計算ソフト (感想の共有)</p> <div data-bbox="164 1798 384 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">二次元コード</div>	<p>具体的なワンシーン授業プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な問いにテンポよく解答させることで、生徒全員を巻き込み、授業のリズムを作る。 [視点(1)、(2)、(4)] ① 食品(海産物)を見せて、食品名を答えさせる。 ② ①が生鮮食品であることに気付かせる。 ③ ①の加工品を見せて、加工食品であることに気付かせる。 ④ ①の食品の共通点に気付かせる。 ※ここで、海産物である以外に、石巻市の特産品であると気付かせる。 ⑤ ①~④を別の食品(野菜)でも行う。 ※①~④の流れから、これらの野菜も特産品であると気づき、石巻市では野菜の特産品もあるという事実気付かせる。 ・聴覚(口頭)、視覚(写真・実物等)両方を提示することで、生徒の関心を引くと共に、言葉だけでは理解が難しい生徒にも分かりやすく情報を提示する [視点(3)]

A3右ページ

(使用例)

事後検討会用メモ

※授業者と生徒の発言や行動を記録してください。

(例: 「教師の発問とそれに対する生徒の反応」「教師から生徒への声掛け」「生徒の変容」など)

時系列	授業中の発言・行動など T……教師の発問・指示や行動 S……生徒の解答・発言や行動	【山下中版授業UDの視点】 についての気付いた点
記入例 授業開始	T: 発問前に、生徒の視線や姿勢、教科準備の確認をして、優しく声掛け。 S: 声掛けにより、準備をしていなかった〇〇くんが教科書を出した。	授業開始時にすべての生徒が視線を教員へ向け、授業を受ける準備ができた。 視点(1)、(2)
開始の発問	T: 「授業を始めます。まず、電子黒板を見てください。見えにくい人はいませんか？」(指示・確認) S: (電子黒板を見る) T: わかめ、さんま、しじみ(べっこうしじみ)と順に画像を出し、生徒に聞く。 S: 画像とともに多くの生徒が返答した。後半、画像の難易度が上がったため答えられない生徒もいたが、答えた生徒が何人かはいたため、分からないことは無かったと思う。 T: 海産物と農作物の画像を並べ、「これらの共通点は何だろう？」(発問) S: 挙手によって、「食品」「生鮮食品」「宮城県で採れたもの」の3つの回答が出た。	最初の声掛けで9割、「見えにくい人はいませんか？」で、生徒の様子を確認したことで、全員が電子黒板を見た。視点(1)、(2) 「簡単な問いからテンポよく解答させることで、生徒全員を巻き込む」という手立ての実践例として分かりやすかった。視点(3) どの解答にも、「いいね」「すばらしい」など、温かい受け止めがあった。視点(1) 「宮城県で採れたもの」が本時に望ましい回答であった。これを、生徒一人の回答で終わりにせず、「どこでわかったの?」とか、「もう一度画像を見てみよう」とすることで、他の生徒の気付きに生かせるのではないか。

今後の授業に生かす方法

(例: 今回のワンシーンの〇〇を△△の単元で実践してみる。←「~する」「してみる」などの形でお考え下さい。)

- ・導入で生徒の気持ちを一気に授業に引き込む発問技術は、理科でも有用なのでやってみる。
- ・事後検討会で話し合われた、「もう少し生徒に仮説を立てる時間を作るとよいのでは」という視点は、私の授業課題でもあると感じた。数学の図形の授業で取り入れてみたい。

第2学年家庭科学習指導案

指導月日 令和7年10月16日
 所属校名 石巻市立山下中学校
 氏名 小林 満

1 題材名「B衣食住の生活 1. 食生活 (5)地域の食文化」(開隆堂 技術・家庭 家庭分野)

2 題材の目標

- (1) 地域の食文化の特徴や、地域の食材を生かした調理の基礎について理解し、それらを生かして、地域の食材を用いた基本的な調理をすることができる。 [知識及び技能] B(3)ア
- (2) 自身の食生活に関わる問題を見だし、地域の食材を生かした献立作成や調理を通して課題を解決する力を身に付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(3)イ
- (3) 食文化の継承・創造の視点を持ち、よりよい食生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫・創造し、実践しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 題材観

本題材は、中学校学習指導要領技術・家庭の家庭分野「B衣食住の生活」の食生活(3)「日常食の調理と地域の食文化」ア、イに基づいて設定した。小学校家庭科で学習した「調理の基礎」に関する基礎的・基本的な知識及び技能を基盤とし、それらを活用して、地域の食文化や食材について理解を深めることをねらいとしている。

日本の食文化である和食は、栄養バランスに優れ、旬の食材や地域の食材を大切にする特徴を持ち、健康面と文化面の両面から高く評価されている。こうした和食の価値を理解し、日常の食生活に生かすことは、豊かな食生活の実現につながる重要な学習内容である。

特に、宮城県石巻市は、水産業を中心とした地域であり、魚介類や水産加工品をはじめとする多様な地域食材が存在している。震災後の復興の過程においても、地域の食材や食文化は人々の生活やつながりを支えてきた背景があり、生徒にとって身近で意義のある学習素材である。

一方で、生徒の食生活は簡便化が進み、地域の食材や郷土料理に触れる機会が少なくなっている。このことから、食文化や食材を自分のこととして捉え、主体的に関わる学習が求められている。

そこで本題材では、石巻の食文化と食材を取り上げ、地域の食材を用いた献立作成や調理を行うことを通して、地域の自然や産業に支えられた食文化への理解を深めるとともに、自ら課題を設定し、調理や家庭での実践を通して解決に取り組む力を育成することを目的とする。また、食生活と社会課題(地産地消や環境問題、持続可能性)を関連付けて考え、自らが設定した課題の調理実習や、それを基にした家庭での実践を通して解決に取り組む主体性を養うことも目的となる。

本題材の指導に当たり、小学校での学習を踏まえ、調理の基礎的な技能(包丁の使い方、計量、加熱調理など)の定着を確認しながら進める必要がある。その上で、小学校で学んだ「栄養バランスと健康」の視点を出発点とし、中学校では「食文化の継承」「地産地消」「持続可能性」といった社会的・文化的意義へと学びを発展させることが重要である。また、与えられた献立の調理から、自ら課題を設定し解決する学習へとつなげることで、より主体的に食生活を捉える態度を育成できるようにする。

4 生徒の実態 [第2学年●組●名]

本学級は、授業規律を守り、落ち着いた態度で授業に臨むことができる生徒が多い。また、学級内に技術・家庭科への関心が高い生徒が複数おり、教師の発問に積極的に挙手をして解答することで、授業の目標達成に向けて級友をけん引する姿が見られる。

しかし、積極的に発言する生徒の意見を頼りにし過ぎて、自分の意見を言えない生徒も少なからずおり、そういった生徒は、授業内で学んだ知識を基に自身の生活の課題を見いだす課題解決型の学習課題に対して、自分の言葉で論理立てて説明することが苦手である。また、全体指示を聞くことが苦手な生徒や集中が続きにくい生徒、言葉だけの説明では理解が難しい生徒が見られることから、視聴覚教材や具体物を用いることで理解が深まる傾向がある。

これまでの授業で、ICTを用いた全員参加型のオンライン掲示版ソフトなどを用いた学習を取り入れてきたことで、自分の意見を書き込もうとする生徒の割合は増えてきた。また、意図的な指名や、授業の感想を学習シートに書かせるなどの工夫を継続してきたことで、自分なりの考えを書き込もう

とする生徒が増えてきた。

本題材への興味・関心を調べたアンケートの結果から、本学級の生徒は「食材の旬を意識しているか」に対しては肯定的な意見が94%と高い一方、「地元食材を意識して購入しているか」については肯定的な意見が31%と低く、家庭でもその意識が十分に根付いていないことが分かる。また、石巻市の食材や郷土料理については「カキ」「ホヤ」「石巻焼きそば」など代表的なものは挙げられるものの、それ以外の食材や料理の認知度は限られている。したがって、生徒の現状として「地域食材や食文化についての知識は断片的」であり、「地域と自分の生活を結び付ける視点」が不足しているといえる。

5 指導観

本題材を指導するに当たり、生徒の現状や関心を踏まえ、以下の点を重視して授業を展開することが重要である。

(1) 「山下中学校版授業UDの視点」から

本校の校内研究で提案し、協議を重ねる中で整理・策定した「本校版授業UDの視点」は、次の通りである。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒に安心感を与える、教員のあたたかな表情や対応。 ② 生徒の目線、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。 ③ 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。 ④ 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。 ⑤ 教師の発問に対して、生徒が仮説を立てる時間の確保。 |
|---|

これらの視点から、本学級では、全体指示を聞くことが苦手な生徒や、集中力が続かずに授業中の上の空になってしまう生徒、言葉だけの説明では理解しにくい生徒などが複数いる現状を鑑みて、授業の展開や活動の指示、机間指導において、特に、次の①、②、③、④の原則を重視する必要があると考えた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒に安心感を与える、教員のあたたかな表情や対応。
授業の開始を笑顔で始めることや、授業内での質問を温かく受け止めて返答することなど、生徒が1時間の授業に安心して臨める表情や対応を心掛ける。 ② 生徒の目線、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。
授業の開始前や、授業内で作業を切り替える指示の際に、教室全体に目配りをし、生徒が集中して授業に取り組む事ができるような状態であるかを確認し、声掛けや準備を待つなどの方法でメリハリをつける。 ③ 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。
教材・教具を提示の順番やテンポなど、提示法を工夫して活用することで、注意が散漫になりやすい生徒の集中を助け、活動の理解を促進する。 ④ 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。
簡単な問いからテンポよく解答させることで、生徒全員を巻き込み授業のリズムを作る。 |
|--|

これらの視点を活用することで、生徒一人一人が理解しやすい学習環境を整えたい。

(2) 本題材への興味・関心の視点から

食品に関する情報や家庭での買物の実態と結び付け、生徒が「食品選択を自分の課題として捉える」ことを意識させる。特にアンケートの結果から「旬」への関心は高い一方、「地元食材」に対する意識は十分でないことが明らかであるため、季節の食材を切り口に地域の水産物や農産物を紹介し、地元食材の価値に気付かせたい。身近な食材を題材にした話し合い活動や調理実習を通して、地域と生活とのつながりを実感できるようにする。

次に、地域食材や郷土料理に関する知識を広げる学習活動を取り入れる。カキや石巻焼きそばなど代表的なものにとどまらず、多様な魚介類や加工品、農産物に触れさせ、調査・発表活動や実習を通じて学習内容を体系的に整理することが必要である。これにより、生徒は断片的な知識を広げ、地域の食文化を自分の生活の中で位置付けられるようになる。

さらに、社会的課題との関連に気付かせることも重要である。食品ロスやフードマイレージ、食料自給率の低下といった今日的課題を学習内容と関連付け、地産地消や持続可能な食生活の意義を考えさせることで、知識や技能の習得にとどまらず、文化や環境の視点を含めて食生活を捉える力を育成

する。

これらの指導を通じて、生徒一人一人が地域の食文化に誇りを持ち、健康的で持続可能な食生活を主体的に考えることができる力を養う。

また、知識や技能の習得にとどまらず、「地産地消」「食品ロス」「持続可能な社会」といった社会的課題に視野を広げさせることで、食文化の継承や創造の意義を理解できると考える。その過程で、生徒一人一人が自ら課題を設定し、調理実習や家庭での実践を通して解決に向かって取り組むよう指導することが、本題材の目標達成につながると考える。

6 題材の指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の食文化の特徴や、地域の食材を生かした調理の基礎について理解し、それらを生かして、地域の食材を用いた基本的な調理をすることができる。(B(3)ア)	①自身の食生活に関わる問題を見出し、地域の食材を生かした献立作成や調理を通して課題を解決する力を身に付けている。(B(3)イ)	①食文化の継承・創造の視点を持ち、よりよい食生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。

(2) 題材の全体計画（4時間扱い 本時1／4）

時	題材名	主たる学習活動	評価規準	評価方法
1 本時	地域の食材の特徴を知る	・石巻市でよくとれる食材の画像を見て、その特徴や良さを協働で調べ、考える。	・地域の食材に関心を持ち、食文化の継承やよりよい食生活の実現につなげようとしながら、その特徴や良さを主体的に調べ、考えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)	観察 学習シート 振り返りシート
2	地域の食材を生かした家庭料理	・地域の食材の特徴を生かして簡単な家庭料理を計画する。	・地域の食材の良さを見だし、それを生かした献立作成や調理の計画を通して課題を解決しようとしている。(思考・判断・表現)	観察 学習シート 振り返りシート
3	地域の食材を生かした調理実習	・地域の食材の特徴を生かして簡単な家庭料理を作る。	・地域の食材を用いた調理について理解した上で、それを適切に調理することができる。(知識・技能)	観察 作品評価 振り返りシート
4	調理の振り返り	・調理実習を振り返り、地域の食材の良さを生かすことができたかを考察し、自身の生活に生かす。	・地域の食材を生かした献立作成や調理を通して、自身の食生活に関わる問題を見だし、解決する力を身に付けている。 (思考・判断・表現)	観察 学習シート 振り返りシート

7 本時の計画

(1) 目標

地域の食材に関心を持ち、食文化の継承やよりよい食生活の実現につなげようとしながら、その特徴や良さを主体的に調べ、考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の指導に当たって

今回は、指導観で触れた山下中学校版授業UDの視点①、②、③、④を以下のような形で授業に取り入れることで、研究授業を参観した教員が自身の授業を作る際の一例となるような授業を目指す。

- | |
|--|
| ① 生徒に安心感を与える、教員のあたたかな表情や対応。
授業の開始を笑顔で始めることや、授業内での質問を温かく受け止めて返答することなど、生徒が1時間の授業に安心して臨める表情や対応を心掛ける。 |
| ② 生徒の目線、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。
授業の開始前や、授業内で作業を切り替える指示の際に、教室全体に目配りをし、生徒が集中して |

授業に取り組む事ができるような状態であることを確認し、声掛けや準備を待つなどの方法でメリハリをつける。

③ 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。
教材・教具を提示の順番やテンポなど、提示法を工夫して活用することで、注意が散漫になりやすい生徒の集中を助け、活動の理解を促進する。

④ 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。
簡単な問いからテンポよく解答させることで、生徒全員を巻き込み授業のリズムを作る。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点 ◎UD活用の視点	評価
導入 5分	1 教師が提示した石巻市でよく採れる食材の画像を見て、問いかけに答える。 ○①（海産物を見せ）生産地から採れたままの鮮度を保った食品を何というかな？ ②（海産加工品を見せ）では、これらの食品は何というかな？ ③①・②の共通点は何かな？ ④同じように野菜で、「生鮮食品→加工食品→共通点を探す」活動を行う ◆①を見て、生鮮食品、②を見て加工食品と気付く（既習事項） ◆③を見て、「海産物」が多く出る中、一部の生徒は「石巻市の食材」と気付く。 ◆④で同じ作業をくり返すことで、「これらも石巻産なのでは？」と気付く。	一斉	<u>興味・関心を持たせる</u> ◎授業開始の時点で、生徒の授業準備が整っているかを見取る。(①②) ◎聴覚（口頭）・視覚（写真・実物）両方で提示する。(③) ◎簡単な問いからテンポよく解答させることで、生徒の関心を引く。(①④) ◎生徒が「石巻市の食材」と気付かない場合のヒントを用意する。(①③)	ワンシーン
	2 本時の目標を学習シートに記入する。 <u>目標：地域の食材や日本の伝統食材の特徴や良さを探そう。</u>	一斉	<u>本時の目標の確認</u>	
展開 40分	3 指定の食材（しじみ・トマト）を観察し学習シートに特徴を記入する。 ○この2品は、石巻市でよく採れ、有名な食材です。その理由の仮説を立ててみよう。 ◆海が近い、気候が合っているなどの仮説を上げる。	班	<u>観察・仮説</u> ◎視覚教材・情報カードで理解を補助する。(③) ◎グループ活動で全員が参加できる。(①②) ◎学習シートに手順や記入欄を明示する。(①③)	地域の食材に関心を持ち、食文化の継承やよりよい食生活の実現につなげようとしながら、その特徴や良さを主体的に調べ、考えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 観察学習シート
	4 地域食材の特徴を考える ○仮説を基に、石巻のしじみとトマトがなぜ特産になっているかをタブレットで調べ、オンライン掲示板ソフトにあげてみよう。 ○調べた内容を学習シートに記録しよう。 どこで採れるか、有名な理由は何か（品質、ブランド、大きさ、味など）、旬はいつか。 ◆タブレットから地元の食材の特徴を探す。 ◆掲示板アプリのほかの生徒の情報を参考にする。	班	<u>情報収集・考察・協働学習</u> ◎視覚教材・情報カード・タブレットでヒントを提供する。(③) ◎協働学習で全員が意見を出せる。(①②) ◎オンライン掲示板ソフト（視覚教材）によって意見を出しやすい。(③)	
	5 地域食材を選択することの良さを考える ○調べた地域食材の特徴を基に、地域の食材を選んで買うことの良さを考えてみよう。	一斉	<u>情報の整理</u> ◎協働学習で全員が意見を出せる。(②)	

	<p>①観察・調べた内容から共通点や特徴を整理 ・海産物が多い → 地理的理由（海が近い） ・野菜・果物もある → 多様な食材が採れる ・季節ごとの調理例→旬の食材を使いやすい ・地元で採れる→新鮮・安価・環境的配慮</p> <p>②教師の問い掛けで気付きを引き出す 「地元と遠くの野菜で鮮度はどう違う？」 「旬の食材を使う利点は？」 「環境や地域経済への良さは？」</p> <p>6 各班の考えた特徴の共有とまとめ ○教師が地域の食材の特徴や良さを整理して提示し、生徒は学習シートに今日の学びをまとめる。</p>	一斉	<p>◎オンライン掲示板ソフト（視覚教材）によって意見を出しやすい。(③)</p> <p>授業のまとめ ◎本時の学習内容のうち、要点を整理させる。(②)</p>	
終 結 5 分	<p>7 本時のまとめ ○今日の学びを振り返り、シートにまとめる。 ◆学習シートに今日の学びをまとめる。 ◆地域の食材に興味を持つ。</p>	個別	<p>振り返りの積み重ね ◎オンライン表計算ソフトを用いることで、記録を積み重ねる。(①③)</p>	

(4) 本時の評価

観点	十分満足できる (A)	概ね満足できる (B)	努力を要する生徒 (C) への手立て	評価方法
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材に高い関心を持ち、食文化の継承やよりよい食生活の実現につなげようとする視点から、その特徴や良さを主体的に調べ、考えを深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材に関心を持ち、食文化の継承やよりよい食生活の実現につなげようとする視点から、その特徴や良さを調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を小グループやペアで行い、個別支援が必要な生徒にも配慮した学習環境を整える。 視覚教材・情報カードで関心を高めつつ、理解を補助する。 黒板や電子黒板に手順を順序立てて示したり、整理したりすることで、生徒が迷わず学習に取り組めるように工夫する。 	観察 学習シート 振り返りシート

(5) 準備物

- ① 教師：食品の写真（海産物：サンマ、ワカメ、しじみ／野菜：ほうれん草、大根、トマト）、本時の学習の流れ（補助シート）、観察・調べ学習用学習シート、情報カード、オンライン掲示板ソフト、電子黒板、タブレット端末
- ② 生徒：教科書、ノート、筆記用具、タブレット端末

(6) 板書計画

<p>地域の食材の特徴を知る</p> <p>目標：地域の食材や日本の伝統食材の特徴や良さを探そう</p> <p>本時の学習の流れを提示</p>

※電子黒板にオンライン掲示板ソフトを掲示する。

ワンシーン・チャレンジシート

日時 令和 年 月 日 ()
 指導者 教諭 年 組
 場所

単元(題材)名	
本時の目標	
検討するワンシーンにおける生徒の実態	
山下中学校版 授業UDの視点	<input type="checkbox"/> (1) 生徒に安心感を与える、教員のおたかな表情や対応。 <input type="checkbox"/> (2) 生徒の目標、姿勢、机上環境、人間関係などを見取る、教室全体への目配り。 <input type="checkbox"/> (3) 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定。 <input type="checkbox"/> (4) 簡潔で分かりやすく、テンポの良い発問と指示。 <input type="checkbox"/> (5) 教師の発問に対して、生徒が仮説を立てる時間の確保。 <input type="checkbox"/> 【導入場面】 <input type="checkbox"/> 【生徒への発問・指示場面】 <input type="checkbox"/> 【ICTの活用場面】 <input type="checkbox"/> 【協働学習・協力学習の場面】 <input type="checkbox"/> 【課題解決学習の場面】 <input type="checkbox"/> 【その他】 ()
検討するワンシーン	検討するワンシーンのおおよその時間 時 分 ~ 時 分頃 具体的なワンシーン授業プラン
感想フォーム	
二次元コード	
過去の記録 オンライン表計算 ソフト (感想の共有)	
二次元コード	

事後検討会用メモ

※授業者と生徒の発言や行動を記録してください。
 (例:「教師の発問とそれに対する生徒の反応」「教師から生徒への声掛け」「生徒の発言」など)

時系列	授業中の発言・行動など T……教師の発問・指示や行動 S……生徒の解答・発言や行動	【山下中版授業UDの視点】 についての気づいた点
記入例 授業開始	T:発問前に、生徒の視線や姿勢、教科準備の確認をして、優しく声掛け。 S:声掛けにより、準備をできていなかった〇〇くんが教科書を出した。	授業開始時にすべての生徒が視線を教員へ向け、授業を受ける準備ができました。 視点(1)、(2)

今後の授業に生かす方法

(例:今回のワンシーンの〇〇を△△の単元で実践してみる。←「~する」「してみる」などの形でお考え下さい。)